

# ふるさと再発見 第88回

Rediscovery Omihachiman

安土城築城450年①

## 築城に関わる人々

2026年は戦国時代を代表する武将・織田信長が、ここ安土の地に城を築き始めてから450年。今年度は、その象徴といえる「安土城」にスポットを当て、全12回に分けて紹介していきます。

安土城は信長が、天下泰平の世を目指し、その拠点とした城であることは言うまでもありません。その歴史は長く、1576（天正4）年築城から3年後に完成、同年に信長が入城しますが、1582（天正10）年の本能寺の変で信長が討たれた後、城は炎上してしまいます。現在は国の特別史跡に指定されている安土城跡ですが、その姿は今

もなお実態が分かっておらず、考古学・文献史学・建築学といった多角的視点から研究が行われています。依然として多くの謎が残されていることも、人々が安土城に引き付けられる一つの要因となっているでしょう。

信長は築城前年に息子・信忠に織田家の家督と、尾張・美濃の両国、そして居城としていた岐阜城を譲ります。そして安土城の築城を開始しましたが、現代のような機械がない時代に城を造ることは一大国家プロジェクトとも言え、想像を超えるほどの人々が関わっていました。信長はこの一大事業の総奉行を織田家宿老の丹羽長秀に任せ



ます。丹羽長秀はこれまでの功績を認められ、1575年に信長から「惟住」姓を与えられており、家臣として重要なポストについていました。また、豊臣秀吉が名乗っていた「羽柴」姓は、丹羽長秀の「羽」と柴田勝家の「柴」からとっており、長秀が織田家にとって重要な人物であったことが窺えます。

長秀は「米五郎左」の異名を持ち、米のように誰にとっても欠かせない存在として、あらゆる任務を器用にこなしました。近世城郭の始まりとされる画期的な安土城の築城の指揮は、やはり最も信頼の厚い人物に託されたのでしょう。



石の普請を行う人々（信長の館展示）



蒲生郡常楽寺村壬申地券地引絵図（常楽寺区蔵）

また、現在の安土町常楽寺一带を治めていた木村次郎左衛門も築城に関わったことが記録に残っています。元は佐々木六角氏の家臣でしたが、安土城築城や城下町建設時、長秀の下で普請奉行となり、信長から褒美を賜っています。絵図の赤枠部分は木村氏の城の推定地で、小字名としてその名が残っています。安土城にはこうした指揮役だけでなく、天主内部に障壁画を描いた狩野派の絵師、畳刺、土木、石工、瓦職人など、記録には残らなかった多くの人々の力が結集していました。一人ひとりの情熱が合わさり、安土城は完成へと向かったのです。

文（文化振興課・山田）

人口と世帯 令和8年3月1日現在 ( )は前月比

総数	81,691人	(- 42)
男	40,166人	(- 34)
女	41,525人	(- 8)
世帯	36,452世帯	(+ 7)

※外国人住民(43か国・地域/2,392人)を含みます。

YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

広報おうみはちまん

令和8年4月号

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp  
WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp



●この冊子は環境配慮型紙を使用しています。印刷時のCO2削減に努めています。●印刷・製本・配送に際しては、環境配慮型紙を使用しています。